



組合員参加で卵パック・紙パックの回収率は 100% を超えています。



店内にもモニターを設置し発電状況をお知らせしています。

第 6 章

環境活動

地球温暖化防止と「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、取り組みをすすめています。



いわて生協 環境方針

環境理念

いわて生協は、2011 年の東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故を受け、「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、取り組みをすすめてきました。その結果、いわて生協の事業で使用する電力の 100% 以上を再生可能エネルギーでまかない、CO₂ 排出量も目標を超えて削減することができました。さらに、再生可能エネルギー比率の高い「コープのでん

き」の組合員への供給も継続しています。

持続可能な地球を子どもたちに残すために、引き続き、人類共通の課題である「地球温暖化防止」のための取り組みや「プラスチック問題」、「食品ロス問題」への対応、「エシカル消費」の普及など、これまで以上に積極的な役割を果たします。

環境方針

1. いわて生協は従来の活動の枠や発想にとらわれることなく、全常勤者が知恵を込め、以下の活動に取り組めます。
 - (1) いわて生協の事業における環境負荷を減らすために、マネジメントラインを通じて、全常勤者が、日常の仕事としてPDCAサイクルをまわし、継続的な改善を積み重ねていきます。
 - (2) CO₂ 排出量は、「2013 年を基準に 2022 年度、67% 削減しています。今後、事業が拡大しても目標を達成し続けるために、再生可能エネルギーの導入推進と、施設・設備の省エネ型への更新、常勤者の節電の取り組みをすすめ、いわて生協で使用する電力の 100% 以上を再生可能エネルギーによる発電でまかなう状況を維持します。
 - (3) 資源の節約とリサイクルの活動を、組合員といっしょに、いっそう推進します。事業者責任として、容器包装の 100% 回収をめざし、年度のリサイクルの目標を設定して取り組みます。レジ袋の節約では節約率 100% を目標に、更に使用の削減に取り組みます。
 - (4) 産直商品、アイコープ商品の利用普及、地産地消の活動を、いっそう推進します。このことで、輸送エネルギーの削減による CO₂ 排出量の削減をすす

- めるとともに、県内農林漁業の復興・振興に寄与します。また、エシカル消費についても、組合員といっしょに、学習や普及をすすめます。
- (5) 食品ロス問題は、食品廃棄の削減、リサイクル率の向上の目標をかげ、取り組みを進めます。「コープフードバンク」「フードドライブ」を通じた社会貢献など、事業者としてより積極的な役割を果たします。
- (6) 岩手の森林を保全・育成し環境意識を高める取り組みとして、「コープの森づくり」を継続します。
2. 環境に関する法令を守り、事業によって環境を汚染しないよう、その予防に努めます。
3. 上記の課題に、全常勤者が主体的に取り組めるように、環境教育を実施します。
4. この環境方針と環境活動の取り組みの結果を定期的に公表し、社会的責任を果たすとともに、環境問題について社会全体の取り組みがさらに進むことに寄与します。

制定日 2011 年 5 月 23 日
 改定日 2023 年 3 月 21 日
 いわて生活協同組合
 理事長 飯塚明彦



いわて生協が参加する野田木質バイオマス発電。



風力発電「風みらい1号」を組合員が見学しました。

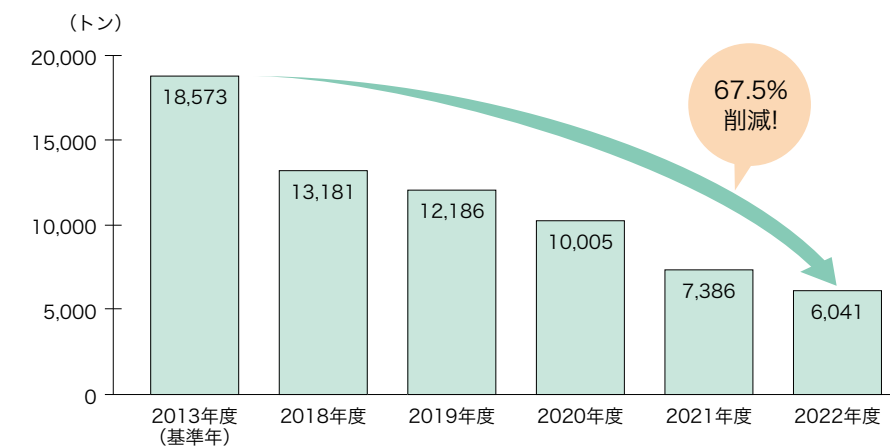
事業におけるCO₂(二酸化炭素)排出量削減の取り組み

2022年度CO₂排出量 2013年度比67.5%削減

2022年度、いわて生協の事業におけるCO₂排出量は6,041トン、前年度から1,345トン（約18%）削減することができました。2022年度のCO₂排出量削減目標「2013年度比64%削減」に対しても、「67.5%削減」と達成し、日本政府が掲げる「2030

年までに46%削減（2013年比）」を大幅に上回る削減となりました。これはいわて生協の44事業所中38事業所を「CO₂排出ゼロ」の電力に切り替えたこと、また電気使用量を前年比97.3%に削減できたことによるものです。

事業におけるCO₂排出量



秋田羽川風力発電「風みらい1号」

「CO₂排出ゼロ」電力を38事業所に

2022年度は「CO₂排出量ゼロ」の電力を、44事業所中38事業所に導入・拡大しました（前年6事業所）。

新たに、東北電力「いわて復興パワー水力プレミアム」をセリオホール水沢南、五月町、西青山に導入しました。この電力は県内の14か所の水力発電で発電した、「CO₂排出量ゼロ」の電力です。



原子力発電に依存しない事業とくらしをめざす取り組み

事業所の電気使用量146%相当を再生可能エネルギーで確保

東日本大震災による原子力発電の重大事故を受けて、「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、再生可能エネルギーによる創電を積極的にすすめています。

2022年度事業所の電気使用量は、2,574万kWh（前年比98.9%）。これに対し、再生可能エネルギーで3,692万kWh（前年比102%）を発電し、電気使用量の146%相当を再生可能エネルギーで確保することができました。

再生可能エネルギー発電100%の電気を組合員に供給する電気小売事業「コープのでんきCOCOENE」は、7,510件の利用となりました。

コープ東北羽川風力発電

2022年度発電量 686万kWh（前年比110%）

みやぎ生協・コープあきたと共同で風力発電3基を秋田県に建設。うち1基がいわて生協の「風みらい1号」。2016年10月稼働。発電出力は2.5MW。

野田木質バイオマス発電

2022年度発電量（いわて生協分）1,188万kWh（前年比100%）

日本生協連、コープ東北サンネット事業連合などとともに参加。2016年8月本格稼働。発電出力は14MW。

花巻木質バイオマス発電

2022年度発電量（いわて生協分）816万kWh（前年比100%）

2017年2月稼働。いわて生協は同年5月より参加。発電出力は6.25MW。



大仙バイオマス発電

2022年度発電量（いわて生協分）371万kWh（前年比100%）

2019年2月稼働。いわて生協は同年4月より参加。発電出力は7.05MW。

松尾八幡平地熱発電

2022年度発電量（いわて生協分）540万kWh（前年比100%）

2019年1月稼働。いわて生協は2020年4月より電力を調達。



姫神ウィンドパーク

2022年度発電量（いわて生協分）881万kWh

2019年4月稼働。いわて生協は2020年4月より電力を調達。

太陽光発電

2022年度発電量 90万kWh（前年比100%）

24の事業所（932kW）で発電しました。



事業所への太陽光発電設置を積極的にすすめています。

太陽光発電設置事業所(2022年度稼働)

事業所名	発電出力 (kW)	事業所名	発電出力 (kW)
セリオホールみたけ	25	宮古センター	25
釜石センター	20	コープ花巻あうる	116
セリオホールみやこ	10	セリオホール仙北	43
ベルフ牧野林	49	花北センター	58
久慈センター	27	セリオホール岩泉	20
けせんセンター	20	セリオホール緑が丘	29
ベルフ山岸	30	セリオホール水沢	22
県南センター	44	セリオホール矢巾	22
セリオホール牧野林	16	介護・福祉センター	10
ベルフ八幡平	117	盛岡北センター	20
コープ関コルザ	80	プロセスセンター	48
盛岡南センター	74	セリオホール西青山	7
		合計	932

廃棄物の削減、リサイクルの取り組み

組合員とすすめるリサイクル活動
回収量は4,516トンに

トレイ、紙パック、卵パックの全量回収をめざし取り組んでいます。2022 年度も回収ルールの発信を継続し、リサイクル参加を呼びかけました。

回収率はトレイ 51.6%、紙パック 146.3%、卵パック 230.5% とトレイの回収率が前年 + 7.6%、51.6%に向上しました。総回収量は 4,516 トン（前年比 103%）になりました。

回収率が 51%にとどまるトレイの回収をさらに広げることが課題です。

古紙回収機は新たに2店舗に設置し、新聞やチラシ、雑誌など 717 トン（前年比 121%）を回収しました。

古紙回収機設置店舗

・ベルフ仙北（盛岡市）
・ベルフ青山（盛岡市）
・ベルフ牧野林（滝沢市）
・コープ花巻あうる

・コープアテルイ（奥州市）
・コープ関コルザ
・マリンコープドラ（宮古市）

組合員のリサイクル活動回収量（店舗・宅配）		
（前年比）		
トレイ （発泡）	52トン （103%）	▶ トレイに再生
トレイ （透明）	27トン （106%）	▶ 透明トレイに再生
ペット ボトル	172トン （110%）	▶ コープ商品の包材、 透明トレイに再生
卵 パック	33トン （105%）	▶ 卵パック原料に再生
紙 パック	83トン （101%）	▶ アイコープわたしたちの リサイクルトレイトロール を含む紙製品に再生
宅配 チラシ	3,114トン （98%）	▶ アイコープわたしたちの リサイクルトレイトロール を含む紙製品に再生
宅配 内袋	20トン （110%）	▶ プラスチック原料に再生
古紙	717トン （121%）	▶ 紙製品に再生
アルミ缶 スチール缶	112トン （101%）	▶ アルミ・鉄製品に再生
廃食油	23トン （88%）	▶ 飼料原料として再利用
ダン ボール	164トン （122%）	▶ ダンボールに再生

※業者に払い渡して再資源化した数量です。

レジ袋節約率は84.8%に

店舗では 2020 年から主要なレジ袋をバイオマス素材比率 50%に切り替え、レジ袋の種類を減らすことでプラスチック使用量の削減をすすめています。また、マイバッグ・マイバスケットの普及にも引き続き取り組みました。

2022 年度末のレジ袋節約率は 84.8%でした。節約率 100%をめざして引き続き取り組みます。

また、2020 年度よりストローやスプーンの提供をご希望の方のみに変更し、255kg のプラスチック使用量削減につながりました。

食品ロス(廃棄)を前年比81%に削減

食品廃棄の削減に向けて、店舗・部門ごとに削減目標を設定して取り組み、食品廃棄量は 67.2 トン（計画比 85.7%、前年比 80.6%）に削減しました。また、食品廃棄物のリサイクル率は 79.6%（前年 +2.3%）に向上し、食品小売業に求められる 55% を大幅に上回りました。食品廃棄物は堆肥原料等にリサイクルされています。



「岩手県 ECO アクション賞」を受賞しました。



「コープの森づくり」の植樹は 12 年間で2万本を超えました。

「岩手県ECOアクション賞」を受賞

この間の環境の取り組みが認められ、「岩手県 ECO アクション賞」を受賞しました。

また「エコ協力店いわて」制度でもこの間のリサイクルの取り組みなどが評価され、いわて生協と2店舗が表彰されました。

2022年度エコ協力店いわて優良事例表彰

総合表彰 ベルフ西町（宮古市）、コープ花巻あうる（花巻市）
優良取組表彰 いわて生協（本部／滝沢市）

組合員活動の取り組み

2か所の「コープの森づくり」に
172人が参加

岩手の豊かな森林を残していこうと、組合員参加で「コープの森づくり」に取り組んでいます。

「コープの森 in くずまき」（2010 年開始）は、植樹活動に組合員・常勤者など 113 人が参加し、クリの苗木 200 本を植樹しました。12 年間での植樹は、委託分も含め2万本を超えています。

「コープの森 in まえさわ生母～国の天然記念物イロハモミジの森づくり」（2014 年開始）の活動は、下草刈の活動に組合員・常勤者 59 人が参加し、これまで植樹したイロハモミジの苗木周辺の下草を刈りました。

「コープの森づくり基金」
収入は194万円に

「コープの森づくり」の活動を支えるため、2012 年に「コープの森づくり基金」を設立し、組合員のリサイクルで回収した紙パックの益金と宅配チラシ益金の一部、「コープの森募金」、お取引先協賛企画による募金を積み立て活動に活用しています。

2022 年度の収入は 194 万円（前年比 103%）で、

組合員による「コープの森募金」は 17 万 1 千円（前年比 110%）。麒麟ビバレッジ様の協賛で「商品購入金額の一部がコープの森募金」企画を店舗で実施し、18 万円の協賛をいただきました。

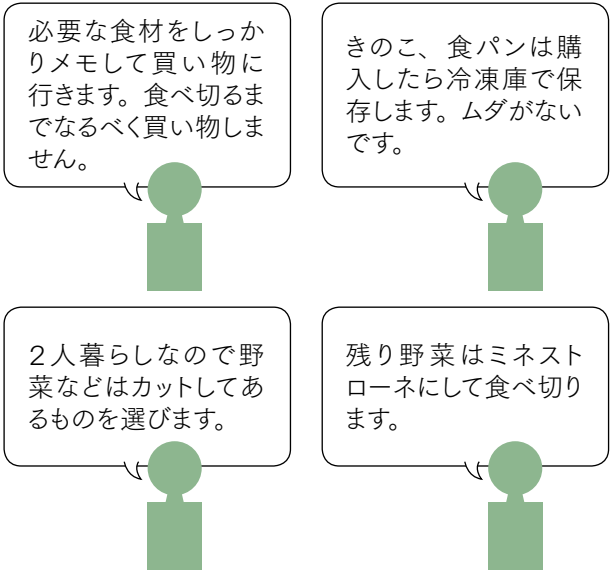
「コープの森づくり」を支えてくださる企業を募集しています。お問い合わせは、環境事業推進室（TEL 019-687-1321（代））まで。



コープの森の活動は親子での参加が増えています。

食品ロスを減らそう
工夫を交流

日本の食品ロスの約半分は家庭から排出されることから、「わいわいコープ」（年5回発行）で家庭でできる工夫を継続して紹介しました。



環境に配慮した商品の利用普及

「エシカル消費」対応商品の利用を拡大
52億円の利用に

買い物をする際、社会や環境にも配慮して商品を選ぶ「エシカル消費」を広げようと、エシカル消費に対応した商品の利用拡大に取り組んでいます。対象は、全国の生協で作るコープ商品のエシカル消費対応商品、いわて生協のアイコープ商品、産直品です。2022 年度、店舗や宅配、組合員活動でもエシカル消費に対応した商品をおすすめし、商品の利用は 52 億 7 千万円（前年比 107.1%）と大きく広がりました。

リサイクルの輪がつながるアイコープ商品

「毎週届く宅配チラシがもったいない」。そんな組合員の声にこたえ、1996 年に盛岡で、翌年には全県で宅配チラシの回収をスタートしました。さらに 1998 年には、回収したチラシを原料の一部に使った商品「アイコープわたしたちのリサイクルトイレットロール」が誕生しました。



組合員から回収した
宅配チラシを原料の
一部に使用。

組合員が使った宅配チラシを回収し、トイレットペーパーにリサイクルし、それを組合員が購入して利用する。回収に出して終わりではなく、製品として利用することでリサイクルの輪がつながる商品です。

製造は、一関市の上山製紙(株)。県内の工場だから原料や商品の輸送距離が短く、より環境にやさしい商品です。



葬祭事業セリオ
エコ棺のご利用は352件と大幅増

葬祭事業では、葬儀の棺に環境負荷の小さい「エコ棺」をおすすめしています。「エコ棺」は、管理された森林から採取した木材パルプを使用した、特殊三層構造の紙製の棺です。木材の使用は従来の棺の3分の2、火葬時の燃焼による排ガス汚染は3分の1に低減されます。また、供給の一部を東京都青梅市御岳の山「グリーンアークの森」の植樹活動に寄付しています。2022 年度は施行件数の 29%にあたる 352 件（前年比 156%）で使用されました。

プラスチックによる環境負荷を減らす
コープ商品の取り組み

世界的な問題となっているプラスチックごみ。全国の生協でつくるコープ商品は、プラスチック容器重量の削減や再生プラスチック・植物由来プラスチックへの切り替えなど、取り組みをすすめています。

コープ商品 プラスチック使用量削減の取り組み

リデュース
1. Reduce
使用量を減らす

包装を省く、小さくする、薄くするなど、使用量を減らします。

リユース
2. Reuse
繰り返し使う

洗剤やシャンプーなどの詰め替え用を充実します。

リサイクル
3. Recycle
再び資源に

回収プラスチックを原料にした包材の利用を広げます。

バイオマス
4. Biomass
植物由来の素材使用

植物からできたプラスチックの利用をすすめます。

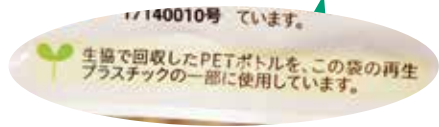
いわて生協で回収したペットボトルが
コープ商品の包材原料に

日本生協連と協力し、いわて生協店舗で回収したペットボトルを、コープ商品のパッケージ原料にリサイクルする取り組みが 2022 年 5 月からスタートしました。「リサイクルのその先を実感できる」取り組みとして、組合員のみなさんから「もっと広げてほしい」と声が寄せられています。

23 年度はこの取り組みに参加する生協がさらに増え、ペットボトルから再生したフィルムを使用しているすべてのコープ商品のパッケージに、生協で回収したペットボトルを原料として利用することができるようになっています。



ペットボトルを回収 圧縮して出荷 商品の包材に



環境活動のあゆみ

1990 年 いわて生協誕生	・牛乳パックの回収リサイクルを開始。 ・買い物袋節約スタンプ制開始。	2009年	・本部構内にBDF精製施設を設置。 ・透明トレイ・ふたの回収リサイクルを開始。 ・盛岡エリア店舗の生ごみ（食品残さ）を小岩井農場内でガス発電・液肥へのリサイクルを開始。
1991 年	・使用済みOCR用紙のリサイクルを開始。 ・食品トレイの回収開始。	2010年	・「コープの森づくり」葛巻町でスタート。 ・BDF使用が本格化し共同購入トラック24台で走行。 ・ISO14001を終了。独自EMS運用へ。
1992 年	・アルミ缶の回収を青山店（現ベルフ青山）で開始。	2011年	・東日本大震災と原発事故を受けて「原発に依存しない事業とくらし」をめざす方針を決定、取り組み開始。 ・家庭の使用済み揚げ油回収スタート。 ・「低炭素杯2012」で、特別受賞。 ・レジ袋大幅削減に向けた提言書を岩手県などへ提出。
1993 年	・朝配達牛乳で、紙パックをリターナブルビン容器（720ml）へ切り替え。 ・レシート用紙を再生紙に。	2012年	・「コープの森づくり基金」設立。 ・「古紙回収システム」ベルフ仙北でスタート。
1994 年	・包装ラップを非塩ビラップに切り替え。 ・店舗の飲料自動販売機の台数を削減（42台から20台へ）。 ・ギフトの簡易包装紙を開発し、使用開始。	2013年	・秋田羽川風力発電共同事業に基本合意。 ・「食品産業もったいない大賞」で審査委員長受賞。 ・電気自動車 4 台を盛岡南センターに導入。
1995 年	・ペットボトルの回収リサイクルを開始。 ・共同購入トラックにLPG（低NOx）を導入開始。	2014年	・「コープの森づくり」奥州市でスタート。 ・「古紙回収システム」をコープアテルイ・コープ関コルザ・マリンコープドラに導入。 ・「できることからECOアクション賞」受賞。 ・野田村の木質バイオマス発電事業へ出資・参加。
1996 年	・共同購入盛岡3支部で商品案内チラシ回収リサイクルを開始（翌年全支部で開始）。 ・注文のないOCR注文用紙の回収リサイクルを開始。	2015年	・電気自動車3台を花北センターに導入。計7台に。
1997 年	・盛岡市「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定。	2016年	・日本生協連の新電力会社「(株) 地球クラブ」からの電気購入スタート。 ・野田木質バイオマス発電、コープ東北羽川風力発電が稼働。
1998 年	・回収したペットボトル・卵パックを卵パック原料として再利用。 ・回収した商品案内チラシを原料に、アイコープトイレットペーパーを商品開発。	2017年	・花巻バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・紙パック、トレイ、卵パックの全量回収をめざす取り組みをスタート。
1999 年	・アイコープ低温殺菌牛乳（200ml）をリターナブルビン容器に切り替え。 ・ペットボトル・卵パック圧縮減容の作業開始。	2018年	・コープのでんき「ココエネ」開始。
2000年	・県内流通業で初めてISO14001の外部認証取得。 ・LPG車両が50台を超え半数以上の導入計画達成。 ・マイバッグ、マイバスケットの本格的普及活動を開始。	2019年	・大仙バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・「岩手県環境活動表彰」受賞。
2001年	・印刷物に大豆インキを採用。 ・遺伝子組換え原料・飼料の排除の取り組み本格化。	2020年	・松尾八幡平地熱発電所と姫神ウィンドパークから電力調達を開始。 ・CO ₂ 排出ゼロの電力を6事業所に導入。
2002年	・買い物袋節約スタンプからカードポイント制に変更。 ・共同購入の内袋を回収し、内部使用のゴミ袋にリサイクル開始。	2021年	・回収したペットボトル全量を透明トレイにリサイクルする取り組みを開始。
2003年	・買い物袋節約率が30%を超える。 ・コープアテルイで生ごみ堆肥化リサイクルを開始。	2022年	・回収したペットボトルの8割をコープ商品包材原料にリサイクルする取り組みを開始。 ・「ECOアクション賞」受賞。 ・「古紙回収システム」をベルフ牧野林、ベルフ青山に導入。
2004年	・印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了。		
2005年	・岩手県「エコショップ」制度第1号認定を受ける（全店）。 ・「森林（もり）を守る募金」開始。以後、この募金を活用し4年間で県内環境団体へ150万円贈呈。		
2006年	・初の太陽光発電をセリオホールみたけに設置。 ・共同購入トラックでBDF使用開始（6台）。		
2007年	・買い物袋節約率45%に。50%をめざす新目標を決定。 ・葬祭事業で環境負荷が少ない棺「エコ棺」を導入。		
2008年	・発泡スチロールの減容・リサイクル施設完成。 ・共同購入トラックで燃費改善の取り組み開始。 ・買い物袋節約率が51%となり、50%の目標達成。		



いわて生協は2030年
ビジョンの実現を通して
SDGs達成に貢献します

いわて生活協同組合

社会活動・環境活動報告書 2022年度の取り組み